

単語の音と(その単語の)意味に関係性があることがある。これは日本語の擬態語(「テキパキ」「ニヤニヤ」「プイっと」「フラフラ」「ボォ～っと」など)からも理解できるはず。英語でもそのような関係が見られる語がある。たとえば v の音はくちびるをふるわせて(息を勢いよく吐き出すように)出すことから「動き」「揺れ、ふるえ」「ブウオ～っと吹き出す」意味を持つ語に多く使われる(move[動く]、vibration[振動]、volcano[火山]...)。このような例をこれから何回かに分けて紹介していこう。

一回目は gl-。これは「キラキラ光る、輝く」ものを連想させる語に多く使われている(日本語でも「キラキラ=光る」と連想できるところが興味深い)。

たとえば glass(ガラス)もそうだ。glad(うれしい)も「顔が輝いている → うれしい」。glance も「ちらっと見る」際の目の動きと「(キラッと)光る」が結びつく(連想できる)。他の例もいくつか挙げてみよう。

glacier 「氷河」

glamorous 「魅惑的な」

※「グラマーな」は和製英語。

glare 「キラキラする光」

gleam 「キラッと光る」「かすかな輝き」

glim 「かすかな光、灯火」

glimmer 「点滅する、チラチラ光る」

glimpse 「ちらっと見る」

glint 「キラキラ光る、輝く」

glisten 「きらめく」

glitter 「キラキラ(ピカピカ)光る、輝く」

glory 「栄光」

gloss 「つやを出す」「つや、光沢」

glow 「(ランプが)輝く、燃えるように輝く」「輝き」

「音と意味～bl-」

「音と意味」の2回目は **bl-**。これは「勢いよく吹き出す」イメージを持つ語に多く含まれる。blaze(①炎(が燃え上がる) ②ギラギラ輝く) などはその典型だが、bloom もその仲間。他の例をいくつか挙げてみよう。

- blow 「(風などが)吹く」
- blast 「①突風 ②爆発」
- bleed 「出血する」
- blare 「(人・サイレンが)がなりたてる」
- blame 「非難する、責めたてる」
- bloom 「花が咲く、花盛りとなる」
- blurt 「だしぬけに(うっかり)言う」
- bluff 「ぶっきらぼうな」
- blush 「ぱっと赤面する」

「意味と音」～ f-

「音と意味」の3回目は **f-**。f という音は、前歯でおさえた下唇をパッと放して息を吐き出して出す音だ。

そこからまず「力強さ」「勢いよく飛び出す」イメージを感じる(連想させる)語に用いられたりする。

fight(ケンカ)、fist(こぶし)、force(力)、fierce(猛烈な)、flare(燃え上がる)、fury(激怒)、fever(熱)、fun(楽しみ、おもしろみ)、fountain(泉)...

日本語でも「火を噴(ふ)く」「噴火」「吹き[吐き]出す」など、同じような連想ができるところが興味深い。

もう一つは「軽い[さ]」イメージを感じる(連想させる)語に用いられたりする(「軽い」は「浮く」「流れる」「飛ぶ」「もろい、壊れやすい」「(か)弱い」へと更にイメージが広がっていく)。日本語でも同じ感覚を「飛行」「浮揚」「気泡」「羽根」「粉塵」「ふわふわ」「へらへら」「ひらひら」「はんなり」「ほっとする」「ほいまい」「ほくほく」といった表現に見つけることができる

(これまた興味深い)。英語でそのような例を挙げると、

faint(かすかな)、feeble(よわい)、freak(気まぐれ)、flavor(風味)、flag(旗)、fancy(気まぐれ)、felt(フェルト)、soft(柔らかい)、feather(羽根)、fly(飛ぶ)、float(浮く)、foam(泡)、fool(バカ)、fan(あおぐ、そよそよ吹く)、fur(動物の柔らかい毛)、fume(煙)、perfume(香水)、fur(動物の柔らかい毛)、flake(かけら)、fugitive(逃亡者)、flirt(ひらひら動かす、いちやつく)、flick(軽く打つ)、flicker(ちらちら光る)、flash(閃光)、flee(逃げる)、flexible(柔軟な)、…

この傾向は **fl-** となった場合に更に強く見られる。たとえば flow は「流れる」。flu は「インフルエンザ」という意味だが、インフルエンザは空気と共に流れてくるもの。flush は「①(顔がさっと)赤くなる ②水がどっと流れる[流す]」だが、①の意味でも、それは顔の血管にどっと血が流れ込んでくることだ。更に fluently は「流暢に」。fluid は「流動体、流体」。flood は「洪水(のようにどっとあふれる)」。flame は「炎」だが、ゆらゆらと揺らめく炎は「軽・流」に通じる。fly は「飛ぶ」以外に「ハエ」という意味があるが、やはり「軽」のイメージがある。flatter(お世辞を言う)もこの仲間。確かに「お世辞」には言葉の重みは感じられない。名詞形は flattery で「お世辞(を言うこと)」。flatterer は「お世辞を言う人」。また flutter は「(蝶などが)ひらひら飛ぶ、(旗などが)はためく」だが、これも「軽い」仲間だ。

それから特に **fra-** のつく語は「砕ける、壊れる、もろい(弱い)」系が多い(これも f の音の持つ「軽さ」に由来する)。具体例を挙げると

fracture(砕けること、割れ目)。fragile(もろい、はかない)。fragrance(芳香、良い香り)、frantic(狂乱した)、fragment(破片、断片)。fraction(断片、一部、分数)。a fraction of ~(わずかの~)、a fraction of land [sympathy](わずかな土地[同情])

「音と意味～shr-」

「音と意味」の4回目は shr- 。これは「(素早く)縮む」「鋭い」というイメージを持つ語に多く使われている(日本語でも「シュルシュルッと」など、この音は「鋭い、素早い」意味と関連性があるのは興味深い)。いくつか例を挙げてみよう。

shriek	「金切り声」	shrill	「甲高い」
shrewd	「鋭い」	shrug	「(肩を)すくめる」
shred	「細かくきざむ」		

「音と意味」～sp-

「音と意味」の5回目は sp- 。sp- の「スパツ」という勢いのある音は「噴出する【させる】」「飛び出す」イメージを与える(日本語でも「スッポーンと」などの音に同じイメージがあるのは興味深い)。

たとえば spring は「春」だが、春は命が吹き出す季節。また「バネ」という意味もあるが、同じイメージでつながる。「スパートをかける」という spurt は、それ以外に「噴出(する)」という意味がある(どちらも sp- のイメージにつながる)。spur は「～に拍車をかける」という意味だが、これは「刺激して力などを出させる」ことで、これもまた sp のイメージとつながる。spa は「温泉」だが、温泉は「お湯が吹き出ている場所」だ。splash は「水が飛び跳ねる」。spit は「つば(を吐きだす)」。spark(火花(か散る))、spray(しぶき、スプレー)、sprinkle(散布する、振りまく)、sprout(芽が出る)、sprint(全力疾走)といったカタカナ英語に通じるものでも枚挙に暇がない。splendid(壮麗な、豪華な、天晴れな、見事な)、sparkle(輝く、際立つ)も同じグループに入れてもいいだろう。

「音と意味」の6回目は **sti-**。「スティッ」という息を吐きだすこの強い音は「刺す(突く)」を意味する語につく。

具体的には stimulus、stick(刺す)、sting(とげ[で刺す])、stink(刺すような悪臭)など。

stifle(鎮圧する、声・感情を押し殺す)も、「地面を刺すように棒で押し固める → 鎮圧する、押し殺す」となる([staɪfl(ス~~タイ~~フル)]と発音する)。stifle には「(火などを)もみ消す」という意味もある。stiff は類語の形容詞。「刺すように押し固められた → 固い」となる([stɪf(ス~~ティ~~フ)]と発音する)。

※stifle については「したいふりさせぬと鎮圧す」と覚えてもいい。専制国家の支配者が、国民のしたいふりは(ようには)させぬとデモ・暴動を鎮圧する…そんなイメージ。

そんな sti 関連の語の例をもう少し挙げてみよう。

stimulate	stimul+ate[動詞語尾]	→ 人を突いて刺激する	⇨ 刺激する、激励する
stimulus	stimul+us	→ 人を突くもの(棒)	⇨ 刺激(物)
sting	sting	→ 突き刺す	⇨ ①刺す ②悩ます ③刺激して～させる
stick	stick	→ 突き刺すもの	⇨ ①突き刺す ②固執する ③棒
stink	stink	→ 鼻を刺すくさい臭い	⇨ 悪臭(を放つ)
stitch	stitch	→ 縫い針を刺す	⇨ ①縫う(こと) ②縫い目、ひと縫い
instinct	in(=cn)+stinct	→ どんどん突いてくるもの	⇨ ①本能 ②直観、勘
instinctive	in(=cn)+stinct+ive[形容詞語尾]	→ どんどん突いてくるような	⇨ 本能的な
distinguish	di(=dis)+sting+uish[動詞語尾]	→ 突き刺して分離する	⇨ 区別する、見分ける

「音と意味」の番外編として **sn** を紹介しよう。

鼻(nose)に関連する語は sn で始まるものが多い。

具体例をあげると、sniff(くんくんと臭いを嗅ぐ)、snore(いびきをかく)、sneeze(くしゃみをする)、snort(鼻を鳴らす)、snuff(嗅ぐ)といったものがある。sneer(嘲笑する)も元来は「鼻を鳴らす」という意味だった。それから snob は「①上流気取りの鼻持ちならない人 ②学問や知識を鼻にかける人」だ。

また「団子っ鼻」は snout と言う。

sn系の単語は「鼻」に関連するだけではない。snake が「ヘビ」というのは誰でも知っているだろう。では snail は? 「カタツムリ」。では sneak は?

「コソコソ歩く」だ。同じ sn で始まるこれらの特徴は、「地を這うように音を立てずに進む」ことだ(「コソコソ歩く」というのも靴の底を地面から離さずに足音を立てずに歩くことだ)。snitch(こっそり盗む、密告する)も、その仲間と言える。sn はそれだけでなく、snap(ポキンと折れる、飛びつく)、snatch(ひったくる) snip (チョコキンと切る)といった「瞬間的な動き」を表す語にも付く。